

2019年10月18日 全16頁

景況感の悪化は限定的か～東日本はやや改善、「中国」などで弱め

2019年10月 大和地域AI（地域愛）インデックス

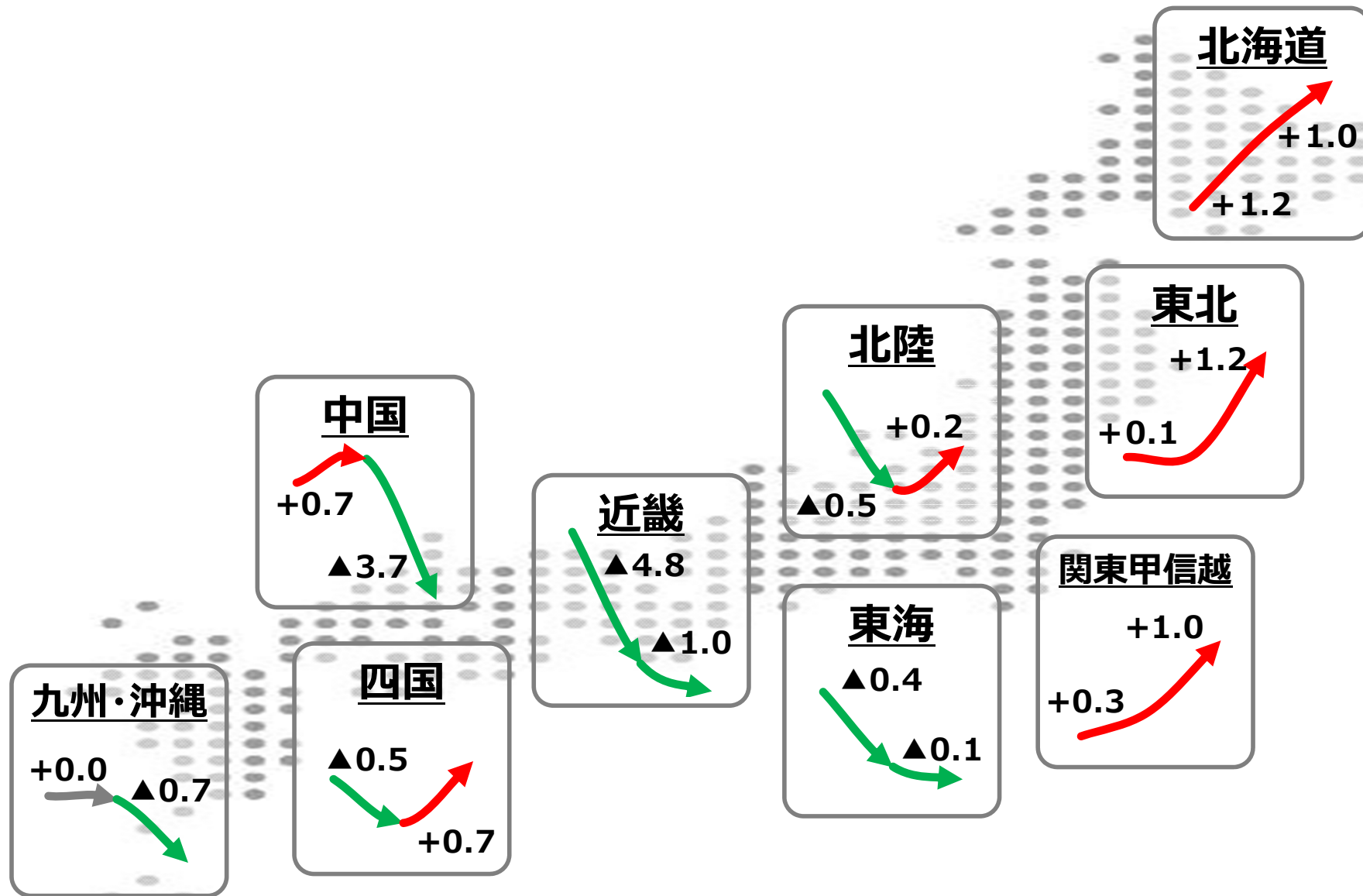
経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
エコノミスト 新田 堯之
研究員 中田 理恵

[要約]

- 2019年10月の大和地域AI（地域愛）インデックスは、5地域で改善、4地域で悪化と強弱入り混じる結果であった。内需の好転によって「北海道」「東北」「関東甲信越」等の東日本でやや改善する一方、米中貿易摩擦の影響を受けて「中国」を中心に弱めの地域も見られた。
- 分野別に見ると、消費関連は「四国」等で改善した。これは消費税率引き上げ前の駆け込み需要による影響と考えられる。前回増税時よりもその影響は総じて小さいと指摘する地域が多いが、一部の地域ではやや強めに出ている。企業関連では、「北海道」で食料品の輸出・生産等、「関東甲信越」ではん用・生産用・業務用機械の生産、「東北」では企業マインドが改善した。一方、「中国」は自動車や化学等で前回より生産は弱めの数字であり、「近畿」の生産も生産用機械や電子部品・デバイスが引き続き弱めである。中国の自動車関連や韓国の半導体関連の受注減少が影響している模様である。
- 先行きに関しては、消費税率引き上げ後の反動減や米中貿易摩擦の長期化による悲観的な見方は残るものの、2019年末以降の地域経済は引き続き堅調な内需が下支えて底堅く推移すると思われる。また、日韓問題等による訪日外国人観光客の減少を懸念する声の一部地域で見られるが、総じてその影響は小さい模様である。さらに欧米中央銀行による金融緩和、日米貿易協定での自動車に対する高関税回避、米国の対中追加関税引き上げの見送り等もあり、今後、企業の過度な悲観論は後退していく可能性がある。ただし、中国を中心とするアジア経済の影響を受けやすい「中国」「近畿」では、米中貿易摩擦の長期化の影響等による下振れリスクがある。
- 一方の内需では、2019年10月実施の消費税率引き上げによる需要の反動減は、各種施策の実施で前回の増税時よりも限定的と見込まれる。さらに「北海道」をはじめ、国土強靱化政策等で公共投資の増加を指摘する地域も多く、今後の内需は堅調に推移すると思われる。ただし、今回の台風15号・19号による被害があった「関東甲信越」「東北」等の地域については、今後その影響を見極める必要があると考えられる。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域AI（地域愛）インデックスのモデル開発はフロンティアテクノロジー部データサイエンスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

大和地域AI(地域愛)インデックスの推移 (19年4月→7月、7月→10月)



(注1) 各地域の数値は、2019年4月から7月の変化幅と7月から10月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（19年7月→10月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	+1.0	緑			赤	赤	
東北	+1.2	赤		赤			赤
北陸	+0.2						
関東甲信越	+1.0	緑		赤		赤	
東海	▲0.1	赤					
近畿	▲1.0	緑					
中国	▲3.7				緑	緑	
四国	+0.7	赤	赤			緑	
九州・沖縄	▲0.7	緑				赤	

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

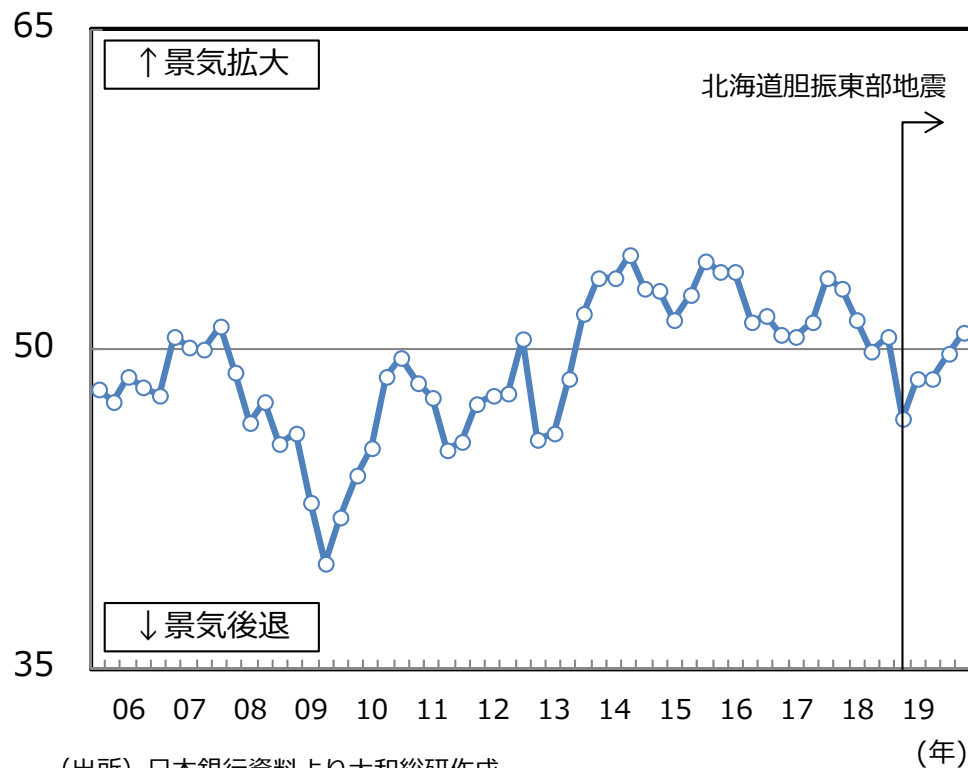
大和地域AI (地域愛)インデックスの変化 (19年7月→10月) とポイント

北海道	大和地域AIインデックスは、2四半期連続で上昇した(7月: 49.8 → 10月: 50.8)。輸出や生産、公共投資が全体を押し上げた。
東北	大和地域AIインデックスは、2四半期連続で上昇した(7月: 48.5 → 10月: 49.7)。消費や企業マインドなどが全体の数字を押し上げた。
北陸	大和地域AIインデックスは、若干ながら上昇した(7月: 52.8 → 10月: 53.0)。住宅投資がマイナス寄与となった一方、設備投資などが全体を押し上げた。
関東 甲信越	大和地域AIインデックスは、2四半期連続で上昇した(7月: 47.3 → 10月: 48.3)。生産や設備投資の判断が上方修正されたことなどがインデックスを押し上げた。
東海	大和地域AIインデックスは、小幅ながらも3四半期連続で低下した(7月: 53.5 → 10月: 53.4)。消費税率引き上げ前の駆け込み需要により消費の判断が小幅に改善したことがプラスに寄与した。
近畿	大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した(7月: 47.2 → 10月: 46.2)。製造業における企業マインドの悪化がインデックスの主な押し下げ要因となった。
中国	大和地域AIインデックスは、2四半期ぶりに低下した(7月: 52.9 → 10月: 49.2)。生産の判断の悪化がインデックスを大幅に下押ししたほか、住宅投資や輸出の判断悪化もマイナスに寄与した。
四国	大和地域AIインデックスは、4四半期ぶりに上昇した(7月: 49.6 → 10月: 50.3)。生産の判断が小幅に悪化したものの、消費や住宅投資などの判断がインデックスを押し上げた。
九州・ 沖縄	大和地域AIインデックスは、2四半期ぶりに低下した(7月: 52.2 → 10月: 51.5)。生産の判断が改善した一方で、消費の判断が悪化しインデックスを引き下げた。

北海道経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、2四半期連続で上昇した（7月：49.8 → 10月：50.8）。
- 輸出や生産（食料品等）、公共投資が全体を押し上げた。
- 今後は、日韓関係の悪化を背景に韓国人観光客の減少が懸念される。法務省「出入国管理統計」によれば、2018年に新千歳空港を経由して入国した外国人のうち、韓国人の割合は国・地域別で最も高い約32%であった。したがって、彼らが日本への観光を控える動きが長期化する場合、「北海道」の観光業全体が落ち込む可能性がある。

大和地域AIインデックスの推移



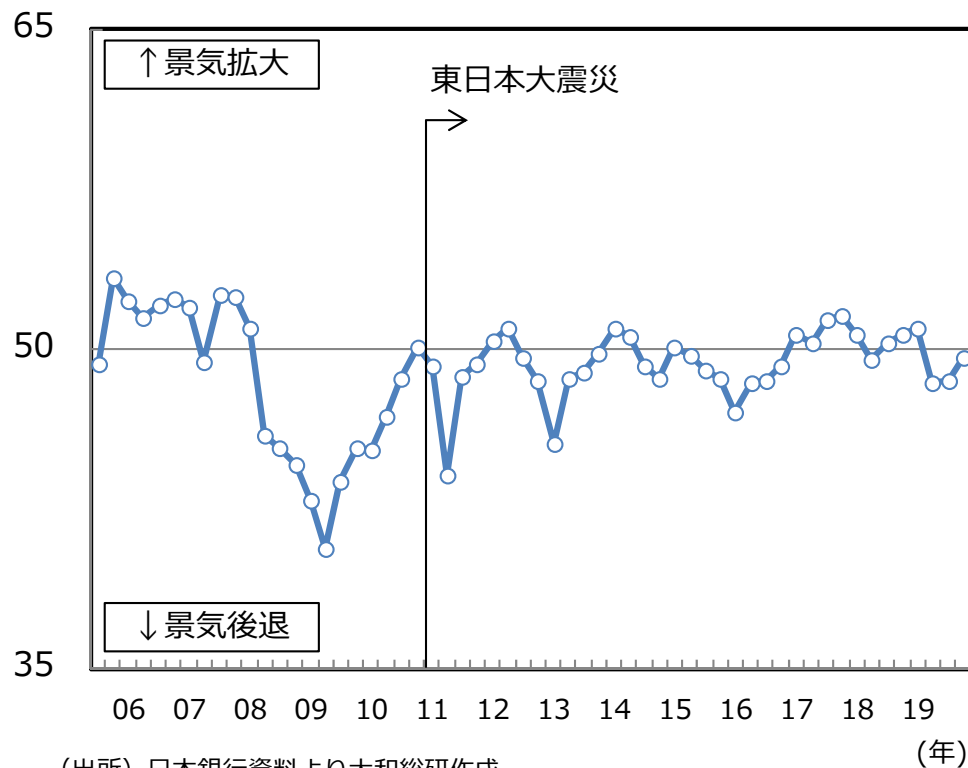
さくらレポートにおける分野別の判断

	19年7月	19年10月
【総括判断】	↑	
緩やかに回復		緩やかに拡大
【公共投資】	↑	
横ばい圏内の動き		増加している
【消費：観光】	↓	
好調に推移		一部に弱めの動きがみられるものの、堅調に推移

東北経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、2四半期連続で上昇した（7月：48.5 → 10月：49.7）。
- 消費や企業マインドなどが全体の数字を押し上げた。
- 台風19号により、福島・宮城を中心に道路などのインフラに加え、自動車関連部品や通信機器等の工場、スーパーマーケットやコンビニエンスストアをはじめとした小売店などに浸水被害があった。今後、こうした供給サイドの被害が「東北」経済に対し、一時的な下押し圧力になる可能性がある。

大和地域AIインデックスの推移



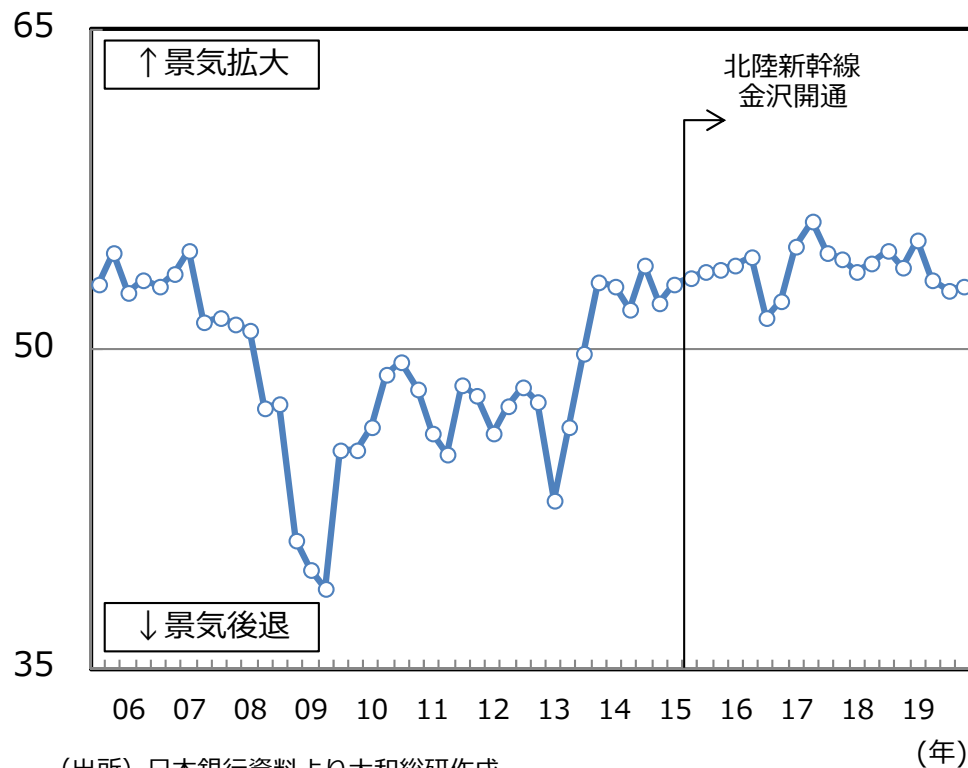
さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】 →	
一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復を続けている	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復を続けている
【消費：家電販売額】 ↑	
持ち直し	増加
【企業の業況感】 ↑	
小幅に悪化	小幅に改善

北陸経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、若干ながら上昇した（7月：52.8 → 10月：53.0）。
- 住宅投資がマイナス寄与となった一方、設備投資などが全体を押し上げた。
- 今後は、台風19号による経済的被害が懸念される。とりわけ重大なのは、北陸新幹線の車両120両が受けた水浸被害であろう。各種報道を見ると、この被害を受け、北陸新幹線は全線再開まで1～2週間程度かかり、その後も運転本数は通常の数割にとどまるという（10月16日時点）。それゆえ、今後、「北陸」の観光業はある程度の期間にわたり、逆風に晒されるリスクがある。

大和地域AIインデックスの推移



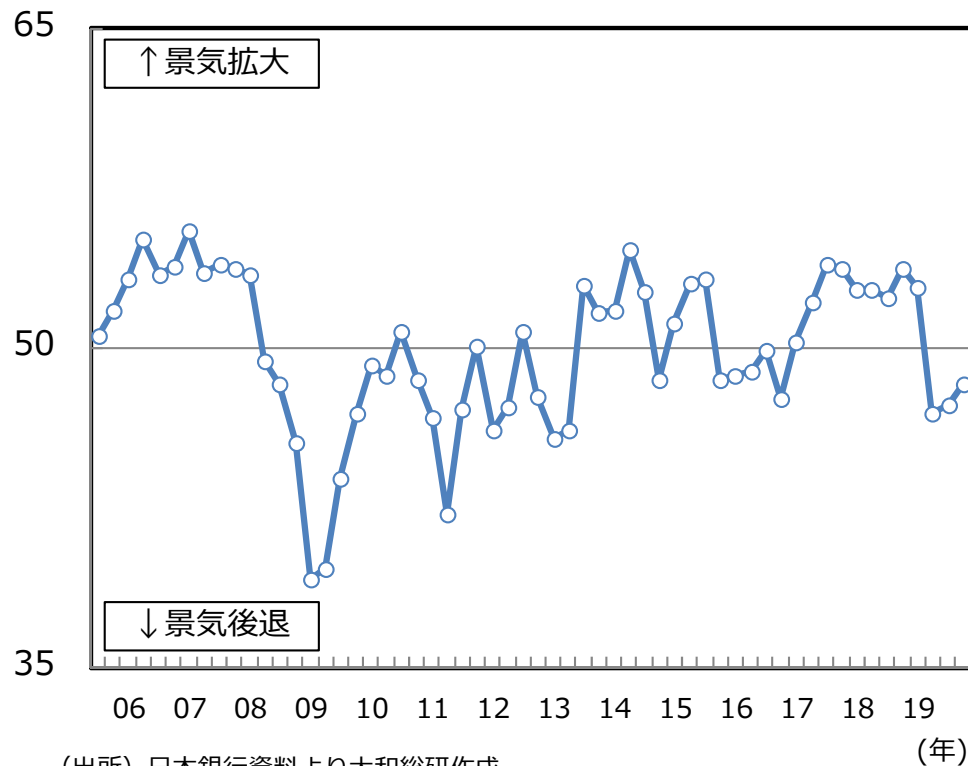
さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】 →	
緩やかに拡大	緩やかに拡大
【物価】 ↑	
エネルギー価格やサービス価格を中心に、上昇	財やサービス価格を中心に、上昇
【住宅投資】 ↓	
増加している	高水準で横ばい圏内の動きとなっている

関東甲信越経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、2四半期連続で上昇した（7月：47.3 → 10月：48.3）。
- 生産や設備投資の判断が上方修正されたことなどがインデックスを押し上げた。
- 具体的には、はん用・生産用・業務用機械の生産が増加に転じていることや、高水準の企業収益が設備投資を後押ししていることがある。ただし、台風15号・19号の被害が「関東甲信越」の広範囲に及び、群馬では自動車部品の調達に影響が出始めていることから、今後はこれら台風の影響を注視していく必要がある。

大和地域AIインデックスの推移



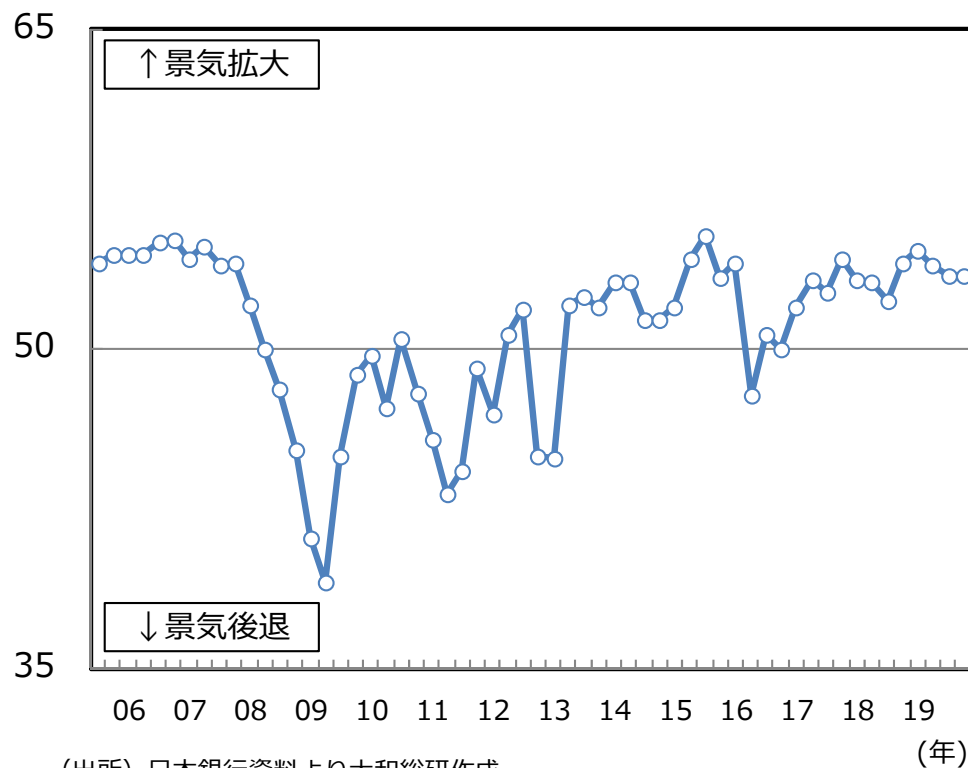
さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】 →	
輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに拡大	輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに拡大
【生産：汎用・生産用・業務用機械】	↑
減少	増加
【輸出】 →	
弱めの動きとなっている	弱めの動きとなっている

東海経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、小幅ながらも3四半期連続で低下した（7月：53.5 → 10月：53.4）。
- 消費税率引き上げ前の駆け込み需要により消費の判断が小幅に改善したことがプラスに寄与した。
- 「東海」では一部の住宅投資で弱めの動きがあるものの、製造業を中心に効率化投資や自動車の研究開発投資の分野において、設備投資計画が強気である。特に中小企業製造業において、研究開発投資額を大幅に増やす傾向が見られる。

大和地域AIインデックスの推移



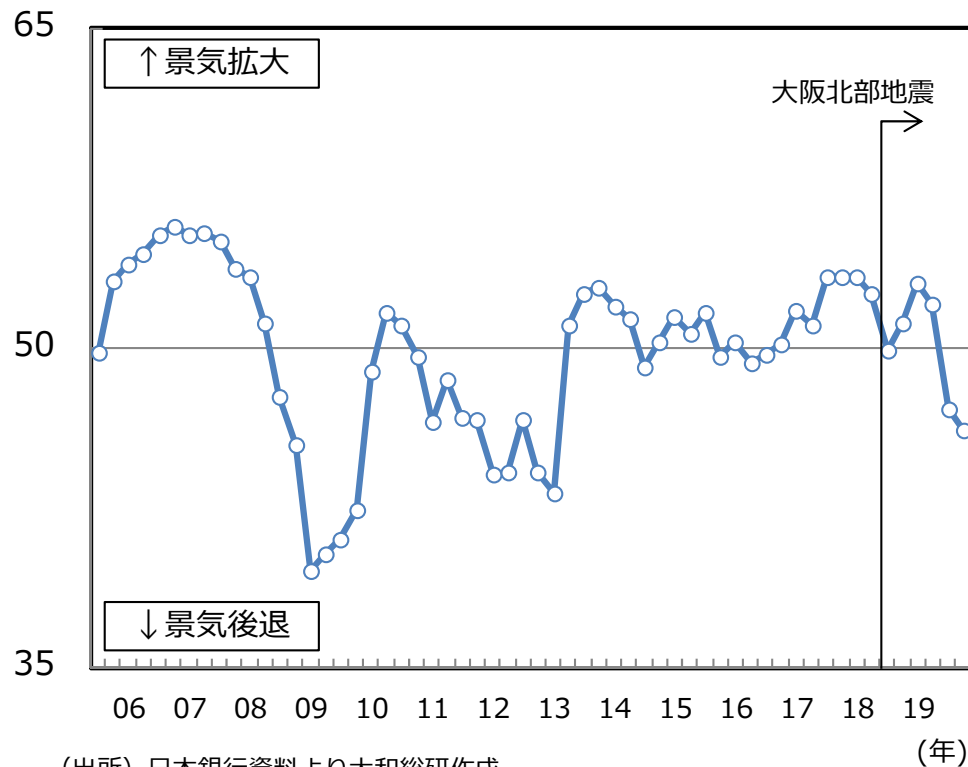
さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】	→
拡大している	拡大している
【消費】	↑
耐久財販売では、消費税率引き上げ前の駆け込みがみられ始めている	耐久財販売のほか、（中略）高額品販売でも、消費税率引き上げ前の駆け込みがみられた
【住宅投資：持家と貸家】	↓
消費税率引き上げ前の駆け込みも増加に寄与	減少している

近畿経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（7月：47.2 → 10月：46.2）。
- 製造業における企業マインドの悪化がインデックスの主な押し下げ要因となった。
- 「近畿」では生産用機械や電子部品・デバイスの生産が引き続き弱めであり、中国を中心とする海外経済の行方を注視すべき。しかし、新名神高速道路や災害復旧等の公共事業の進捗、中国・東南アジア・欧米からの訪日客の増加もあって、需要は比較的堅調に推移する見込み。

大和地域AIインデックスの推移



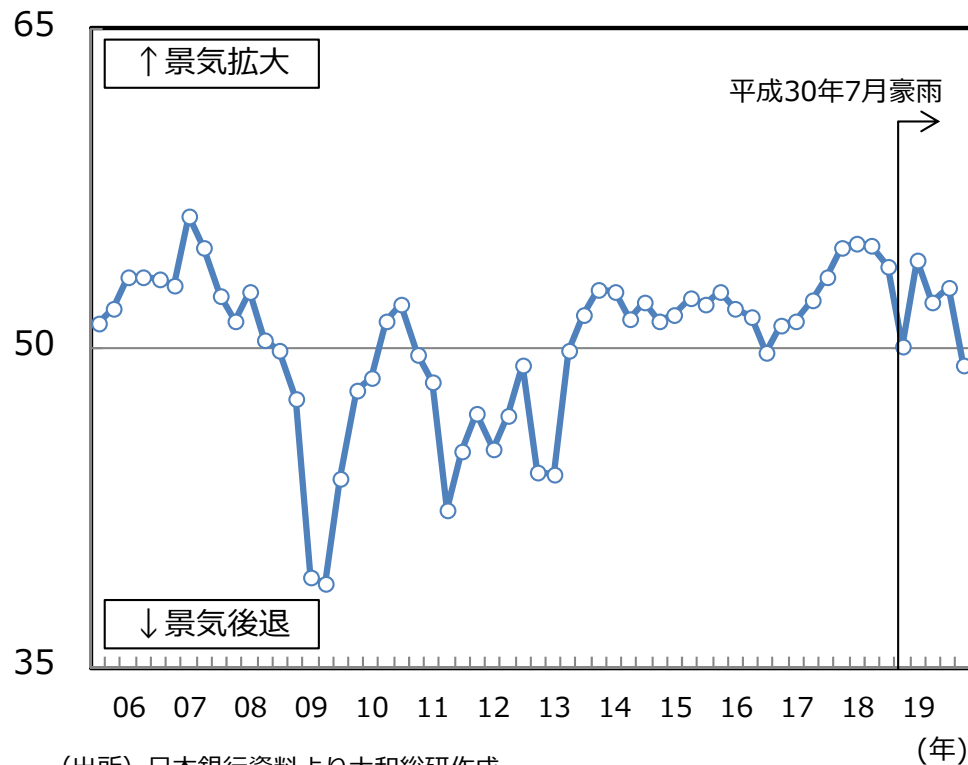
さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】 →	
一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな拡大を続けている	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな拡大を続けている
【企業の業況感】 ↓	
非製造業を中心に良好な水準を維持	製造業は悪化しているが、非製造業は良好な水準を維持
【輸出】 →	
足もと弱めの動きがみられている	足もと弱めの動きがみられている

中国経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、2四半期ぶりに低下した（7月：52.9 → 10月：49.2）。
- 生産の判断の悪化がインデックスを大幅に下押ししたほか、住宅投資や輸出の判断悪化もマイナスに寄与した。
- 中国の自動車市場の低迷を受けて自動車の新規受注が減少、生産における判断の悪化に繋がった。韓国からの半導体関連受注の減少も下押し要因となっている。また化学等でも海外経済減速の影響で一部弱めの動きが見られる。

大和地域AIインデックスの推移



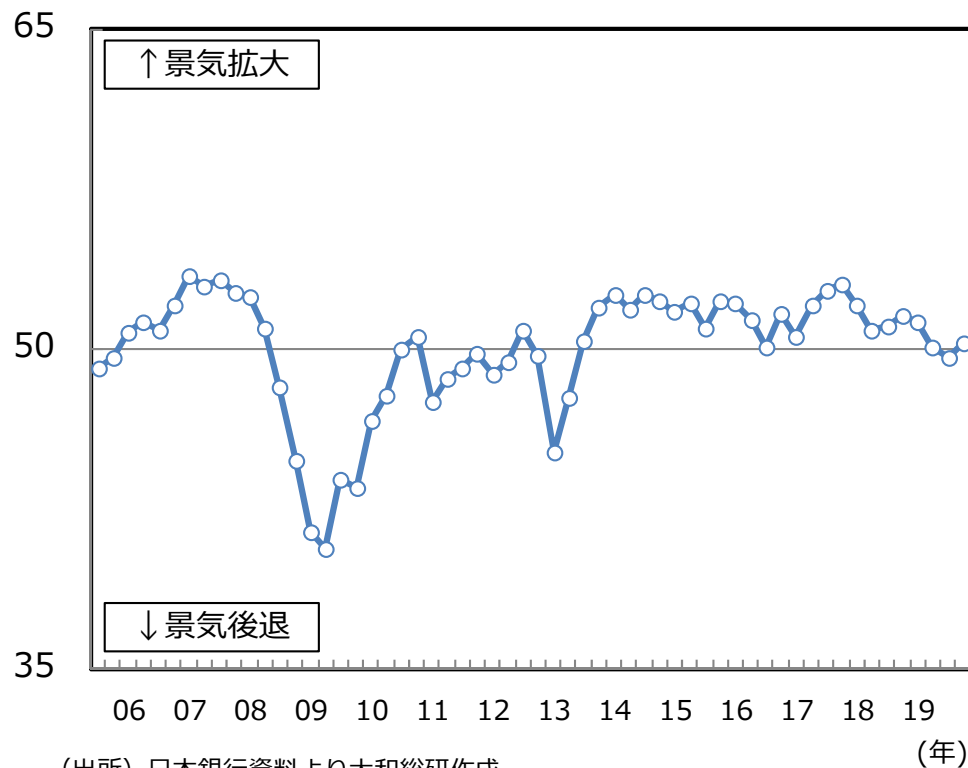
さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】 →	
緩やかに拡大	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに拡大している
【生産】 ↓	
基調としては増加	足もと弱めの動きがみられている
【住宅投資】 ↓	
持ち直している	横ばい圏内で推移

四国経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、4四半期ぶりに上昇した（7月：49.6 → 10月：50.3）。
- 生産の判断が小幅に悪化したものの、消費や住宅投資などの判断がインデックスを押し上げた。
- 増税前の駆け込み需要や買い替え需要により、家電販売が好調であった。
- 生産については、生産用機械等において海外における自動車販売減速による受注環境悪化の影響が見られた。

大和地域AIインデックスの推移



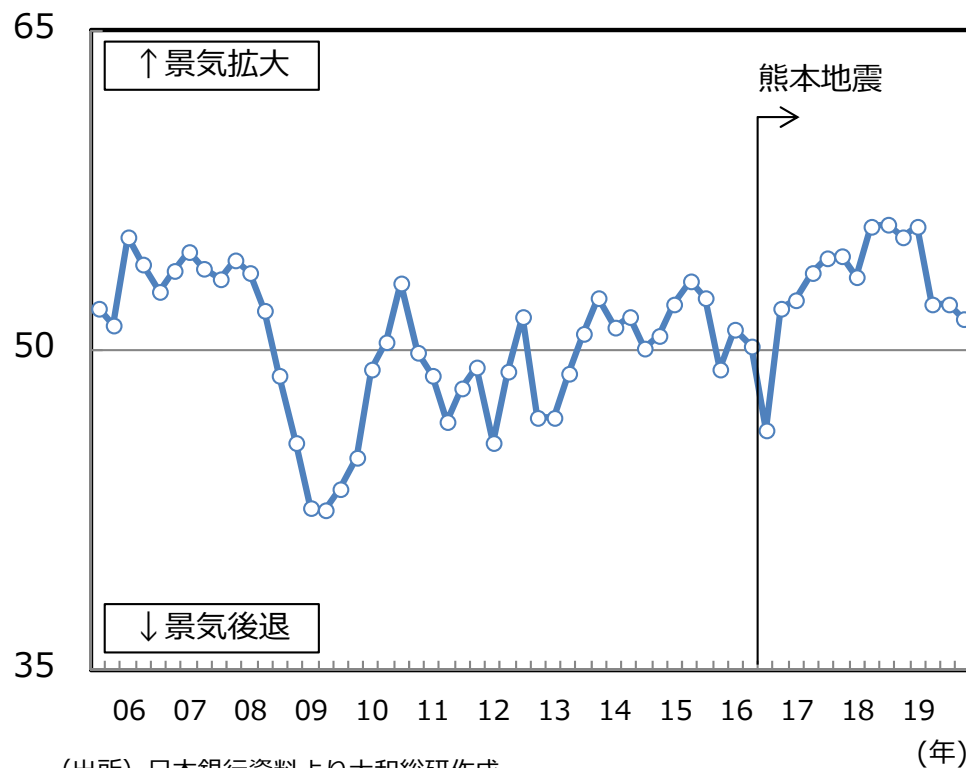
さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】 →	
回復している	回復している
【消費：家電】 ↑	
底堅く推移	振れを伴いつつも、緩やかな増加傾向
【生産：汎用・生産用機械】 ↓	
一部で弱めの動きがみられるものの、全体としては高水準	弱めの動きとなっている

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、2四半期ぶりに低下した（7月：52.2 → 10月：51.5）。
- 生産の判断が改善した一方で、消費の判断が悪化しインデックスを引き下げた。
- 公共投資は、震災関連工事が減少する一方で、九州新幹線西九州ルート関連工事や在来線高架化工事などの着工開始により高水準を維持している。
- インバウンド関連需要については、韓国からの観光客が減少しているが、全体での影響は限定的とされている。

大和地域AIインデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

19年7月	19年10月
【総括判断】 →	
緩やかに拡大	緩やかに拡大
【消費：観光面】 ↓	
全体として着実に持ち直している	一部に弱めの動きがみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている
【生産：化学】 ↑	
新興国向けを中心に持ち直している	国内向け、新興国向けを中心に高水準で推移

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが我が国の大きな課題**となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握**することが必要となる。
- 本レポートの特徴として、**最先端のAIモデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域AIインデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデルの見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2019年10月15日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域AI(地域愛)インデックスとは？

→ **地域別の景況感を最先端のAIモデルで算出した指数。**

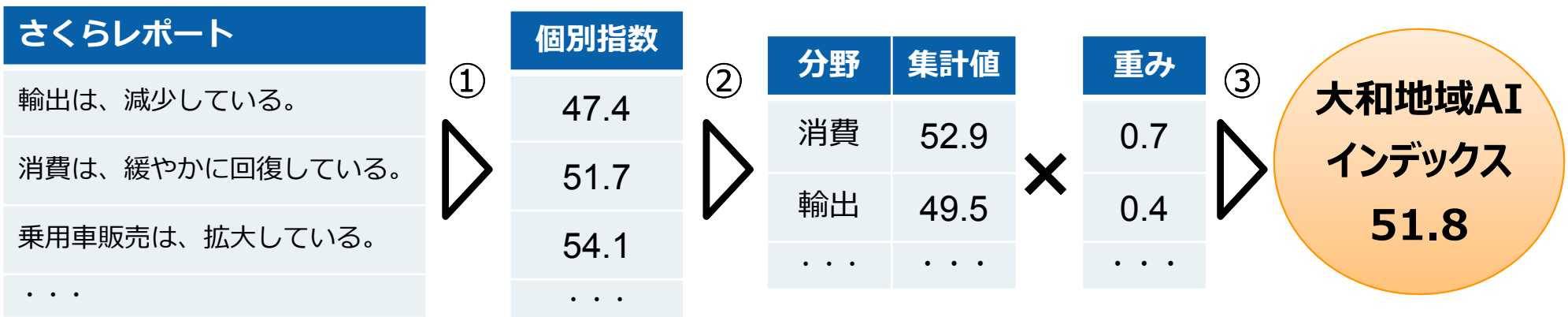
※大和地域AIインデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AIモデル**で指数化。

AIモデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習。**

作成イメージ



- ① 景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから
テキストと景気動向の関係性を学習*

景気判断	景気判断の理由
○	...客単価が上がってきている

⇒ “○”だから「客単価が上がる」はポジティブな表現

- ② 文章の内容から、言及している分野を識別
Ex. 「消費」「設備投資」「生産」など
↓
分野別に指数の集計値を算出

- ③ 景況判断とマッチするように
分野別の重みを推定
↓
重み付け集計により
最終的な指数を算出

*参考文献：山本裕樹、松尾豊（2016）「景気ウォッチャー調査の深層学習を用いた金融レポートの指数化」2016年度人工知能学会全国大会
<<http://www.ai-gakkai.or.jp/jsai2016/webprogram/2016/pdf/219.pdf>>

日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成